

《国内・国際》

4/4 高校への留学生 3割 減る

2011年度、日本の高校に3カ月以上留学した外国人は1283人で、前回の2008年度調査から30%減ったことが3日、文部科学省の国際交流状況調査で分かった。出身国別では中国が最多の464人。次いで米国とオーストラリアがともに112人、韓国97人の順。一方、3カ月以上の高校留学をした日本の高校生は3257人で、2008年度より2%増えた。ただ、ピークの1992年度よりは27%も減っている。ここ数年は減り幅が大きく、不況が背景にあるとみられる。

4/9 救急出動 2023年にピーク

全国の救急車の出動件数が、2012年に約580万2千件(速報値)と過去最多を記録したが、その後も増え続け、2023年に約619万8千件でピークに達するとの予測を、総務省消防庁が8日までにまとめた。日本の人口は減少局面に入っているが、社会の高齢化が進み、急病や転倒などのけがで搬入されるお年寄りが多くなるためだ。救急車の出動増で現場到着が遅れば、助かる命が危険にさらされる。このため、消防庁は緊急性の高い人を優先的に搬送する仕組みの検討を進めたいとしている。

4/17 人口28万人減 過去最大 国：推計人口

総務省は16日、日本の総人口が前年より28万4千人減少し、1億2751万5千人(前年比0.2%減)になったとする2012年10月1日現在の人口推計を発表した。マイナスは2年連続で、比較可能な1950年以降で減少数、減少率ともに最大を更新した。推計によると、高齢者の人口は3079万3千人にのぼり、総人口に占める割合は24.1%と過去最高となり、全都道府県で高齢者数が14歳以下の年少者数を上回るなど、少子高齢化の一層の進展が浮き彫りになった。都道府県別でみると、人口増加率が最も高かったのは沖縄県。減少率最大は福島第1原発事故の影響が続く福島県だった。また、東京都、埼玉県、千葉県では初めて死亡者数が出生児数を上回った。

4/28 就業者 5人に1人 60歳以上

60歳以上で働いている人(就業者数)は2012年平均で前年比17万人増の1192万人となり、6年連続で過去最多を更新したことが、総務省の労働力調査で27日までに分かった。全就業者に占める割合は19.0%に達し、ほぼ5人に1人が60歳以上となった。年金の受給開始年齢の引き上げや高齢化などで、60歳の定年後も働く人が増えている。若い世代の働き手が減っており、60歳以上の占める割合はさらに高まる見通しだ。

《県内》

4/16 山口宇部空港 利用 9.4%増

山口県が15日に発表した県内2空港の2012年度の利用状況によると、山口宇部空港東京線(羽田)の利用者数は83万4412人で前年度と比べ9.4%(7万1903人)増加し、4年ぶりに80万人台を回復した。県は景気が徐々に回復してビジネス利用と、観光キャンペーンの展開で首都圏からの観光利用が増えたのが要因と分析している。山口宇部空港の東京線は2002年のダブルトラック化で全日本空輸に加え日本空港が乗り入れるようになり、2003年度の利用者数は96万1819人とピークを記録した。その後は減少傾向にあり、2011年度は前年度1.7%減の76万2509人とダブルトラック後、最低を更新したが、ようやく増加に転じた。また、昨年12月13日に開港した岩国錦帯橋空港の東京線(羽田)の12年度の利用者は、10万2576で、利用率69.9%と堅調に推移している。

4/27 県内就職内定率 高校生：微減 大学生：改善

山口労働局は25日、この春県内の高校や大学などを卒業した生徒や学生の3月末現在の就職内定状況を発表した。高校生の内定率は98.8%で前年同期を0.2ポイント下回ったものの、ほぼ前年度並みを維持。大学生の内定率は3.3ポイント増の89.8%で、2年ぶりにプラスとなった。高校生の内定率を男女別にみると、男子99.0%、女子98.5%でいずれも前年同期を0.2ポイント下回った。高校生以外の内定率は、大学生89.8%(前年同期比3.3ポイント上昇)、短大生95.7%(同5.8ポイント上昇)、高専生99.4%(同0.8ポイント上昇)、専修学生95.9%(同2.3ポイント)上昇で、いずれも前年同期を上回った。